

【目次】

1. 講演会「片山哲・民主化のリーダー」（梅澤昇平氏）を開催、5月24日！
2. 日本労働会館2018年度第1回理事会を開催、5月15日！
3. 滝田実、和田春生、協調会の資料を探しています！
4. 連載「日本労働会館物語」第74回―戦前期、労働者の利益を守った男 その2―

1. 梅澤昇平氏を招いて 講演会「片山哲・民主化のリーダー」を開催、5月24日！



友愛労働歴史館は労使関係研究協会と共催で5月24日(木)14時から、当歴史館研修室において公開講演会「片山哲」を開催しました。講師は尚美学園大学名誉教授で友愛労働歴史館研究員の梅澤昇平氏、テーマは「片山哲・民主化のリーダー、現代に受け継ぐべきものは何か―片山、芦田、西尾、ケーディス―」で、講演会には事務局を含め35名が参加しました。

梅澤氏はレジュメ（パワーポイント）のスライド1「民社（旧社民）の戦い」から講演をスタート。スライド2「日本占領下」、同3「時代と人間関係（占領下）」、同4「時代と人脈（日本社会党）」と話しを進め、連合軍の占領下に置かれていた日本の時代状況や社会党の人脈などについて解説。その後、スライド5「片山哲とは」と同6「片山の人柄・信条・闘い」で、片山哲の人物像を浮き彫りにしました。続いてスライド7「片山政権は」、同8「片山内閣の功罪」、同9「ポスト片山・芦田政権」と話しを進め、最後にスライド10「残されたもの」で「現代に受け継ぐべきもの何か」を報告・提起し、講演を終了（詳細は略）。約1時間20分の講演後に質疑応答・意見交換を行い、16時前に閉会しました。なお、梅澤昇平氏の講演レジュメ（パワーポイントでスライド12枚）をご希望の方は、Eメールで友愛労働歴史館まで申し込んでください。

2. 日本労働会館2018年度第1回理事会を開催、5月15日！

友愛労働歴史館や労使関係研究協会などの公益事業を展開している（一財）日本労働会館（小出幸男理事長）は、5月15日（火）11時から2018年度第1回理事会を開催しました。理事会は第1号議案2017年度事業報告や第2号議案同決算報告を承認するとともに、第3号議案2018年度宿泊事業計画修正（案）など第7号までの議案（略）を承認し、13時頃に閉会しました。

3. 滝田実、和田春生、協調会の資料を探しています！

友愛労働歴史館は現在、企画展「戦後民主化のリーダー 片山哲」（2018.1.5～6.29）を開催しています。また、7月からは松岡駒吉（総同盟会長）の生誕130年・没後60年を記念し、企画展「松岡駒吉一ひとすじに労働者の利益を守った男―」（2018.7.6～12.21）を開催します。

今後の展示会として2019年1月に特別展「民社党結党から60年（仮題）」（2019.1.7～1.31）を予定し、また和田春生（労働運動家、政治家、評論家）の生誕100年・没後20年を記念した企画展「全労会議と滝田実・和田春生」（2019.2.5～6.28）を計画しています。

さらに来年7月からは協調会創立100年を記念し、企画展「協調会と友愛会・総同盟」（仮題）を予定しています。協調会は「1919年、渋沢栄一らを中心に設立された労使協調のための研究調査・社会事業を行う財団法人」（ウィキペディア）でした。

滝田実、和田春生、協調会に関する資料をお持ちの方は、友愛労働歴史館までご一報ください。

4. 連載「日本労働会館物語」第74回—戦前期、労働者の利益を守った男・松岡駒吉 その2—

今回の「日本労働会館物語」は、松岡駒吉の2回目。「日本労働運動育ての親」と呼ばれたクリスチャン松岡駒吉（1888.4.8～1958.8.14）は、「健全なる労働組合主義」の確立者で、総同盟第二代会長。彼は政治家としても活躍し、1947年の片山内閣では衆議院議長を勤めています。



松岡は1888年4月8日、鳥取県岩井市で生まれました。15歳の時、郷里を出て機械工を志し、16歳で真鶴海軍工廠機械工見習いとなり、18歳のとき、丹後教会で洗礼を受けています。松岡は機械のマニュアルを読むため教会に通い英語を学んでいましたが、やがて牧師夫妻の生き様に打たれ、キリスト教に入信したとされています。

松岡駒吉はその後、いくつかの職場を経て1910（明治43）年、室蘭の日本製鋼所に入り、25歳（1913年）のとき室蘭教会でクリスチャンの伊藤カツヨと結婚しています。

翌年、26歳で友愛会に入り、29歳の時に友愛会本部専従となり、1918（大正7）年には友愛会本部主事となっています。後に総同盟関東同盟会会長となり、1925（大正14）年には松岡組と呼ばれた若手活動家グループを率いて共産党系左派組合（後の評議会）の除名を主導します。1926（大正15）年には労働組合・労働運動の合法化をめざし、社会民衆党の結党に参加しています。



松岡駒吉は1927（昭和2）年に千葉県野田市で起きた野田醤油労働争議（1927.09.25～1928.04.20）で活躍します。彼の著『野田大労働争議』（1928年）は、野田大争議の実態を今に伝えています。

また、松岡は労働運動非合法の時代に経営者・資本家に労働組合を認めさせ、団体（労働）協約を締結させることに力を注ぎました。1928（昭和3）年、東京製綱と結んだ団体（労働）協約は、いまま労使関係を研究する人々に注目されている先駆的な事例です。

1930（昭和5）年、松岡は旧ユニテリアン教会惟一館を買収して日本労働会館（友愛会館）とし、日本労働学校をスタート。さらに友愛病院、青雲荘、神楽坂食堂などの共済事業に取り組みました。また、地方に12の分館を建設し、そこを拠点に労働者教育や共済事業を展開しました。

このため松岡駒吉は、「戦前のきわめて困難な時代にただ一筋に現実の労働者の利益を守るために、地道な努力を続けてきた人物」（『松岡駒吉伝』）と評されています。

「人間の尊厳、進歩と発達のために」

発行：友愛労働歴史館

責任者：徳田 孝蔵

担当者：間宮悠紀雄

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

Tel.050-3473-5325

Eメール yuairedorekishikan@rodokaikan.org HP <http://www.yuairedorekishikan.com>

惟一館から124年、友愛会から106年